

粘着トラップ調査方法

粘着トラップは、粘着シートを用いた床置き式の歩行性昆虫用のトラップ。地面に設置し、3日(約72時間)後に回収、その間にトラップに囚われたアリを採集する。頻繁に立ち入れない場所や夜間の調査が必要な場合に使用する。アリの餌の選好性や種間の競争力に関わらず、地上を徘徊するアリならどの種でも採集できるのが利点。また、目視調査に比べ、サンプルを持ち帰れる点も利点であるが、標本が粘着剤にくっついているため同定の際にはよりさらなる労力を要することがある。

また、トラップの種類による捕獲率の違いがあるため、適切なものを選択することが必要。さらに、誘引餌を粘着トラップの入り口部分に置いて設置するとアリの捕獲効率が下がるため、粘着トラップを使用する際は誘引剤を併用しないこと。

1. 調査計画例

1.1 調査時期: 調査は働きアリの活動が活発な秋(10~11月)に設定するのが良い。

1.2 調査エリア 調査エリアは以下の優先順位に沿って選定する。

【最優先地域】国際コンテナを多く取り扱う港等の地域(例: 那覇港、石垣港など)

【優先地域】上記以外でコンテナ等を扱う地域。および国外を含め過去に侵入事例がある施設等
(例: 那覇空港、中城湾港、平良港、など)

1.3 調査ポイント

トラップ設置ポイントを調査エリア内に設定し、各ポイントにポイント番号をつける。

2. 準備する

2.1 設置ポイント分の粘着トラップを用意しておく。

2.2 必要な数の設置用記録用紙、回収用記録用紙、回収ラベルを作成しておく。

記録用紙と回収ラベルを準備

①設置記録用紙

トラップ設置時の必要事項を記録するためのもの。設置日や設置時間、GPS座標などを記入できるように。

調査ポイント番号	調査日	設置時間	GPS座標	天気	備考
01	/	:			
02	/	:			
03	/	:			
04	/	:			
05	/	:			
06	/	:			
07	/	:			
08	/	:			
09	/	:			
10	/	:			
11	/	:			

②設置記録用紙

トラップ回収時に必要事項を記録するためのもの。回収時間やアリの有無、GPS座標などを記入できるように。

調査ポイント番号	トラップよりアリの有無(有/無)	調査日	回収時間	GPS座標	備考
01					
02					
03					
04					
05					
06					
07					
08					
09					
10					
11					

③回収ラベル

回収時の目印にトラップの中に入れるもの。設置エリア、ポイント番号がわかるように。

集別ラベル	
設置日	_____
設置時間	_____
設置エリア	_____
ポイント番号	_____
調査日	_____
回収時間	_____
調査エリア	_____
ポイント番号	_____

3. トラップの設置・回収

3.1 設置ポイントの地面に粘着トラップを置く。

※設置時に各設置ポイントで GPS 位置座標を測定し記録する

粘着トラップ設置方法

粘着トラップ本体にポイント番号を記入できるタイプのももある。

トラップの底が地面にぴったり接するように置く（草などで浮いたりしないように）。



3.2 設置から 3 日後にトラップを回収する。

粘着トラップ回収方法

トラップは個別にジップロック等に入れて回収する（生きたアリがトラップの周りについていることもあるため）。

その際にどこのポイントのトラップかわかるようにラベルも入れる。



4. アリを確認する

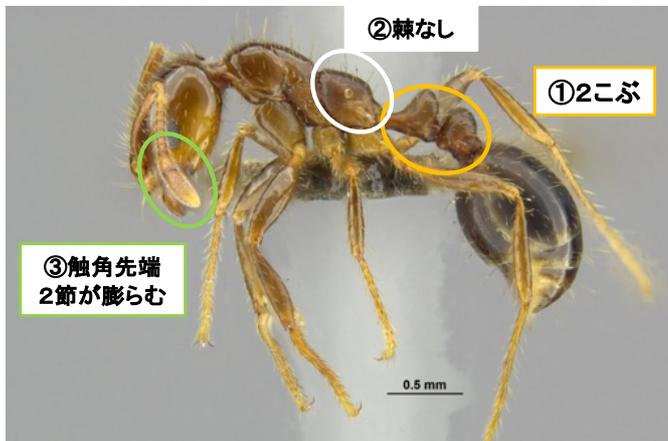
4.1 粘着トラップを入れた袋内に生きたアリが残っている場合は、冷凍庫に入れて殺虫する。

4.2 回収した粘着トラップの粘着部分についているアリを顕微鏡等で確認する。

→ここでもしヒアリと疑わしいアリが確認された場合は、「沖縄県ヒアリ対策総合マニュアル (Ver.2.0)」の P9 の通報先に通報の上 P11 へ。

ヒアリの見分け方

以下の3つの形質に該当すれば、
ヒアリである可能性が高い



体長
2.5～6 mm

実寸大



※様々なサイズの
働きアリが混じる

5. 調査に必要なもの

【野外調査】

- 粘着トラップ(市販のもので屋根がついているタイプ)
- 回収袋(チャック付きプラスチックバッグなど)
- 記録用紙(表1)
- 識別ラベル(図3、回収用記録用紙から切り離して使えるタイプが便利)
- 鉛筆(ボールペンだとエタノールがかかって消える危険性があるので鉛筆が良い)
- GPS 測定器

【アリの仕分けと確認】

- 顕微鏡(実体顕微鏡が良い)
- ピンセット